院内感染対策への一考察

－当院看護部職員 581 名の SARS に関する意識調査を実施して－

南病棟３階
○松　尾　正　子　　西　野　圭　子
戒　田　祐　子　　玉　浦　美　幸
安　川　博　子　　西　浦　真千代

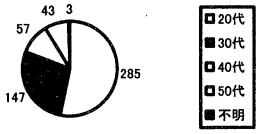
Ⅰ．はじめに

重症急性呼吸器症候群[1]（以下 SARS と呼ぶ）は 2002 年 11 月 1 日中国広東省で発生し、世界へと広がった。WHO[1] は 2003 年 3 月 12 日、SARS に関する全世界的警戒を発令した。

奈良県は 2003 年 4 月に当院南 3 階東に SARS 病棟を開設し、当病棟看護師が受け入れ準備に携わった。感染拡大を防ぐためには SARS に対する危機意識や感染予防対策が重要である。これらを実施するためには、全職員の協力が不可欠である。そこで終息宣言後の SARS 対策実施にむけて現在の看護部職員の SARS についての関心や感染予防対策を中心に調査を行なった。

Ⅱ．研究方法

当院に勤務する補助婦を除く看護部職員 581 名を対象に無記名自記式質問紙法を用いてアンケート調査を実施した（**表 1**）（**図 1・2・3**）。期間は 2003 年 9 月 17 日から 29 日までで、回収率は 92.1％（535 人）であった。調査内容は SARS に対する関心、不安、病態や感染対策についてであった。

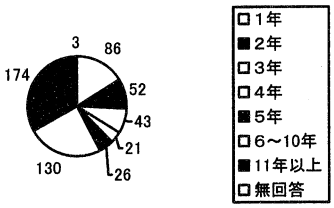


N＝535 人

図 1　年齢

N＝535 人

図 2　性別



N＝535 人

図 3　臨床経験年

Ⅲ．結果

アンケートの結果、終息宣言後も SARS に対して「関心を持っている」と答えた人は 97.0％で、「関心がない」と答えた人は 2.2％であった（**図 4**）。

N＝535 人

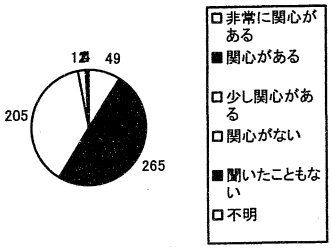


図4 SARS への関心

終息宣言後、SARS に関する報道の機会が減少しているが、情報を手に入れようとしている。

人は 92.1％であり、何もしていない人は 7.5％であった（**図 5**）。

N＝535 人

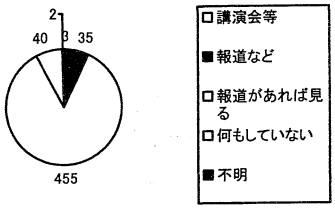


図5 SARS に関する情報収集の有無

SARS に感染する可能性への不安を「持っている」と 97.0％の人が答え、2.0％の人が「不安はない」と答えていた（**図 6**）。

N＝535 人

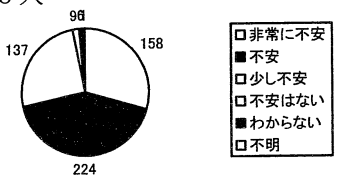


図6 SARS に感染する可能性への不安

SARS 可能性例・疑い例を含めて患者に接する可能性が「ある」と 95.4％の人が答え、反対に「あり得ない」と答えた人は 0.9％であった（**図 7**）。

N＝535 人

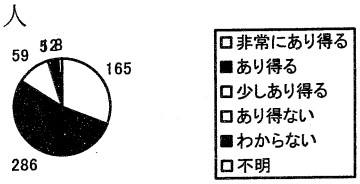
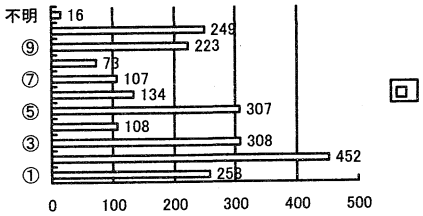


図7 SARS 可能性例患者に接する可能性

SARS に関する病態については②「38℃以上の急な発熱」が 84.5％、③「インフルエンザ様症状」が 57.6％、⑤「乾性咳嗽と呼吸困難」が 57.4％などあげられた。（**図 8**）。



N＝535 人

＜①～⑩の詳細は表 1 参照＞

図8 SARS に関する病態理解

2003 年 9 月までの奈良県における SARS 疑い例と可能性例の症例数を知っている人は、②の 63.6％であった。（**図 9**）。

N＝535 人

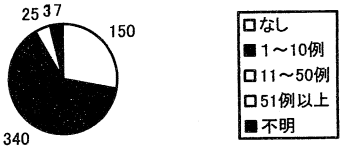


図9 奈良県の SARS 疑い例・可能性例

SARS の感染対策については③「患者の早期発見・隔離および治療」が 82.6％、⑤「正しい情報の共有と地域における啓発」が 78.5％であり、その他の項目については 50～60％程度であった（**図 10**）。

N＝535人
<①～⑥の詳細については表1参照>

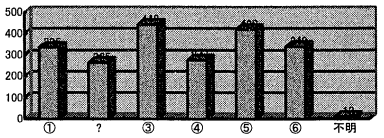


図10　必要な感染対策

『院内感染対策マニュアル』を知っている人は95.0％いたが、実際に活用している人は39.3％であった（**図11**）。

N＝535人

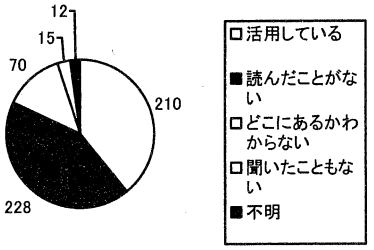


図11『院内感染対策マニュアル』の活用状況

標準予防策について知っている人は67.7％であった（**図12**）。

N＝535人

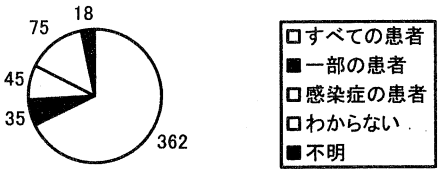
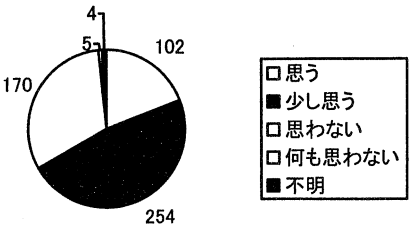


図12　標準予防策について

「SARSは正しい知識をもって予防策を行えば、不必要に恐れることはないと思いますか」の質問には66.6％が「思う」と答え、32.8％が「思わない」と答えた（**図13**）。



N＝535人

図13　SARSの感染予防策に対する恐れ

Ⅳ．考察

看護部職員の大半は、現在もSARSに関心をもち、情報を集めようとしていた。しかし情報は、マスコミから収集しているため、報道の機会が減少すればSARSへの関心が薄れていくことも懸念される。

不安を感じる人が多かったのは、SARSの感染源や感染経路、治療が確立されていないこと、過去に多くの死者や感染者を出したこと、医療従事者を介しての院内感染がみられたことなどが背景にあると考えられる。

病態の特徴については「38℃以上の発熱」はよく知られていたが、「潜伏期間」、「呼吸困難」などはあまり知られていなかった。これらは渡航暦に加えて診療の際に重要とされる症状である。SARSはインフルエンザとの鑑別が困難と言われていることから、病態を理解し確実に患者をトリアージ（＝診療優先制度）できる体制を整えておくことが重要である。

SARSの感染対策や標準予防策の対象者については、多くの人には知られていなかった。『院内感染対策マニュアル』を「活用している」と答えている人も全体の半数に満たないことから、感染対策について全ての看護師が同じレベルで感染対策を行えていない可能性も考

えられる。

標準予防策はすべての患者を対象に実施される感染対策の基本であり、これに感染経路別対策を加えて院内感染対策の基本を成すといわれている。ここで感染対策はチーム医療であり、24時間患者のそばで看護を行う看護師のもつ役割は重要である。高野[2)]は看護師が感染対策を行う意味として「①感染対策の実施者である。②感染経路がわかる。③調整の役割をもっている。④患者教育・指導の役割をもっている」と述べている。当院では院内感染防止委員会が設置され、『院内感染対策マニュアル』も整備されており、感染防止体制は整えられている。しかし設備やマニュアルが整えられていても、一人の不注意が感染拡大を招く恐れのあることから、一人一人が緊張感を持って感染対策を実施する必要がある。看護師は医療チームの一員として関わっていくことから、まず個人レベルでの感染対策に関する知識や技術の向上に努める必要がある。

V．終わりに

私たちが今後有効なSARS感染対策を実施するためには、SARSへの関心や不安の高さを利用して病態理解やSARS感染対策の教育を徹底することが必要である。また、『院内感染対策マニュアル』の活用が低かったことからその原因を明らかにし、教育と活用を向上させ院内感染対策を徹底していく必要がある。なぜならば私たちは、SARSによって今まさに院内感染対策を問われているからである。

引用文献

1）満田年宏:ナースのための院内感染対策、照林社、128～139、2003.

2）高野八百子：ナースの力が求められるこれからの感染対策、看護技術、48（7)、773～776、2002.

参考文献

1）中村哲也、他：今だからこそ！SARS対策―新興・再興感染症―他、INFECTION CONTROL、12（11)、1116～1155、2003.

2）喜多英二、他：SARS拡散と院内感染に共通する危機管理意識の欠如、奈良県立医科大学学報、第5号、1～2、2003.

3）中西洋一、他：医学生，医療従事者の結核に対する意識調査、結核、77（6)、457～463、2002.

4）岡慎一：この冬の院内感染対策、Nursing－Today、18（13)、23～24、2003.

表1　アンケート用紙

「ＳＡＲＳに関する意識調査」

1　平成　14年11月以降急速に拡大、その後終息宣言が出されたＳＡＲＳについて（1つだけ）

①非常に関心がある②関心がある③少し関心がある④関心がない⑤聞いたこともない

2　現在終息宣言が出され、ＳＡＲＳに関する報道に接する機会が減っていることについて（1つだけ）

①講演会・専門誌などで積極的に報道を入手している②報道は積極的に入手している③報道があれば見る④何もしていない

3　医療従事者はＳＡＲＳに感染する可能性が高いといわれていることについて（1つだけ）

①非常に不安②不安③少し不安④不安はない⑤わからない

4　医療の現場ではＳＡＲＳ可能性例患者に接触する可能性があることについて（1つだけ）

①非常にあり得る②あり得る③少しあり得る④あり得ない⑤わからない

5　ＳＡＲＳについて当てはまるものをすべて選んでください

①潜伏期間は１０似日以内②38℃以上の急な発熱③インフルエンザ様症状④下痢を伴うことがある⑤乾性咳嗽と呼吸困難⑥低酸素血症⑦10～20%は人工呼吸器装着約⑧90%は６～７日頃に回復傾向となる⑨起因病原体はＳＡＲＳCorona　Virus⑩中国広東省で発生

6　９月現在までの日本におけるＳＡＲＳ疑い例と可能性例をあわせると68例になりますが、奈良県ではどのくらいになると思いますか（1つだけ）

①なし②１～10例③11～50例④51例以上

7　ＳＡＲＳの感染拡大防止に必要な感染対策について当てはまると思うものをすべて選んでください

①標準予防策（スタンダードプリコーション）②バリアナーシング（病原体封じ込め看護）③患者の早期発見・隔離および治療④感染経路別予防策⑤正しい情報の共有と地域における啓発⑥接触者対策

8　奈良県立医科大学附属病院の「院内感染対策マニュアル」があることについて（1つだけ）

①活用している②知っているが読んだことはない③聞いたことはあるがどこにあるかわからない④聞いたこともない

9　標準予防策（スタンダードプリコーション）について（1つだけ）

①すべての患者ケアに使用する②一部の患者ケアにのみ使用する③感染症と診断された患者ケアにのみ使用する④わからない

10　ＳＡＲＳは正しい知識を持って予防策を行えば、不必要に恐れることはないと思いますか（1つだけ）

①思う②少し思う③思わない④何も思わない